

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2021



所 属： 人文学部

名 前： 城戸 申一

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：城戸申一

所属：人文学部

1. はじめに

教員が自らの教育活動を様々な根拠に基づいてまとめることは、その成果や課題が顕著になり、自らの改善につながるだけでなく、社会に開かれた教育課程を実践に移すことができる。私も同僚諸氏の素晴らしい実践を学び、ティーチングポートフォリオの作成、振り返りおよび改善を続けることによって、学生たちの学びに繋いでいきたい。

2. 教育の責任

①教師としての資質が高い教員。②授業の目的を明確にし、学生主体の授業を通して、自らの将来の姿を描くための支援ができる教員。③学校の現状を情報として提供し、そのことを土台として学生が感性を磨き、将来の具体策を構築できるように支援することができる教員。④人間関係形成能力を身につけた教員を輩出し、大学として地域に貢献できる一助となる教員。

2.1. 授業科目の担当

2018年～2020年度の3年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
教育経営学（中高）	2019	37	教育の基礎的理解に関する科目
生徒指導論（進路指導を含む）（中高）	2019	24	教育相談等に関する科目
小学校教育実習	2019	45	教育実践に関する科目
教職実践演習（中高）	2019	27	教育実践に関する科目
教師力演習	2019	60	教育実践に関する科目
児童教育フィールドワーク	2019	40	児童教育コース科目
教育経営学（中高）	2020	48	教育の基礎的理解に関する科目
生徒指導論（進路指導を含む）（中高）	2020	29	教育相談等に関する科目

生徒指導論（進路指導を含む）（小）	2020	51	教育相談等に関する科目
小学校教育実習	2020	46	教育実践に関する科目
教職実践演習（中高）	2020	26	教育実践に関する科目
教師力演習	2020	60	教育実践に関する科目
児童教育フィールドワーク	2020	40	児童教育コース科目
教育経営学（中高）	2021	40	教育の基礎的理解に関する科目
生徒指導論（進路指導を含む）（中高）	2021	25	教育相談等に関する科目
生徒指導論（進路指導を含む）（小）	2021	30	教育相談等に関する科目
英語Ⅰ	2021	26	共通教育科目
英語Ⅱ	2021	25	共通教育科目
小学校教育実習	2021	51	教育実践に関する科目
教職実践演習（中高）	2021	19	教育実践に関する科目
教師力演習	2021	60	教育実践に関する科目
児童教育フィールドワーク	2021	40	児童教育コース科目

■ 主要担当科目

【生徒指導論】

生徒指導の歴史・理念・性格・児童生徒理解・学校教育相談等に関して、法令研究を含め多角的に学修している。また、児童生徒の問題行動等調査結果などを参照し、学校の現状を知り、自分なりの感性を磨き、将来の具体策まで構築できることを目標としている。併せて、進路指導及びキャリア教育に関する学修を行っている。

【教育経営学】

学級経営ができる教員を養成することを目指し、学校経営を法令集・学習指導要領などを参照して学校（学級）経営における基本的な仕組みなどを多角的に学修している。また、担当者の教師生活の経験から、先輩教師の実践などを紹介し、将来の学級経営に繋いでいる。

【英語 I・II】

共通科目としての英語教育ではあるが、児童教育コースを担当していることから、英語の豊かさや英語を分かる喜びなどを児童生徒に伝えられる教師になるための知識・態度を育てることを目標としている。英検の問題などを題材として、英文解釈の技術やコツをつかめるよう支援している。また、希望者にはプリントを作成し、単語力向上の支援を行っている。

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

■ 非常勤講師

特になし。

2.2. 教育組織運営

教職保育支援センター在駐職員である。

3. 教育の理念

高等学校における教職経験などをもとに、教師の学びを学生に伝え、更には学生が将来教師となって子供たちにその学びを伝えるという学びの循環を目指した教育を行う。

3.1. 理念 1

学生が主体的に学び理解度が高まるように、テキストや配布資料を充実させる。

3.2. 理念 2

大学での学修に留まることなく、その学びが将来の教師生活に直結するようにする。

3.3. 理念 3

それぞれの学びが実学となるように、個に応じた教育指導を行う。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

4.1. 方法 1

教材の中に空白部を設けたり、重要箇所に関する問題を提示したりなど、学生が主体的に深い学びができることを目指した自作の教材を提供する

4.2. 方法 2

単元毎に学生同士の意見交換の場を設け、自分にはない他者の考えを吸収できるようにする。また、先輩諸氏の経験などを文書で紹介し、児童・生徒指導や学級経営の幅を拡げる支援をする。

4.3 方法3

学生一人ひとりとの対話を実践するため、学生が提出する授業の感想などに対し、交換日誌と称して学生一人ひとりに対する『返し』を毎時間行う。

5. 教育改善のための努力

5.1. 改善努力1

授業評価アンケートを省察し、毎年学生のニーズに沿った教材に作り直し、授業内の発問やグループワークの題材などを練り直す。

5.2. 改善努力2

新聞などから最新の教育現場のニュースや、教員採用試験における面接項目などに対する考察を教材に加え、地域が求める教師像を織り込んだ授業づくりをする

6. 教育の成果・評価

学校現場で実施される「心のアンケート」などのデータを基礎とした実学を重視し担任と児童・生徒の関わりなどに関するロールプレイ形式での授業展開が、学生の理解度を増し、授業が役立つものであったという評価に近づいたのであろう。また、公教育の理念などは学修必須項目ではあるが、学生にとっては実感として直結しない一面がある。そのため授業内容を教職についたときに直面する実用的なものに近づけた。一方、事前・事後学習に関して、学生を満足させられなかったようだ。

7. 今後の教育に関する課題と目標

従前の講義中心の授業が依然として残っており、併せて事前・事後指導に改善の余地が残った。そのため、学生自身が自ら将来教壇に立ったときに起こす行動を、模擬的に体験できる授業展開を心がけ、同時にそれに即した教材作りを行う。また、毎回、前授業と次授業の間一週間を使って、学生一人ひとりと文書上で意見交換を行ったが、有意義であったと感じ、更に続けていきたい。また、ICT を有効活用する技術を身につけ、対面形式の授業ができない場合においても、授業の質を下げることがないように努めたい。

授業以外の活動ではあるが、教員採用試験受験希望者等に向けた対策を充実させ、素晴らしい人材を輩出する大学として地域に貢献できる一助になりたい。

8. 参考資料

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果